

信州版「山の標識」設置プラン

木曾地方事務所

1 提案の趣旨

「信州 山の日（7月第4日曜日）」を、長野県の山岳への関心を高めるための大きなムーブメントとして定着させていくためには、関係部局が協力しながら「信州 山の日」関連の施策を展開し、継続的な情報発信を行っていくことが重要である。

その一環として、県内の山岳に、山の案内板として統一的な木製標識の設置を推進し、信州を訪れる人々に、その山に対する親しみを深くしていただくとともに、「『山』を守り育てながら活かしていく」という県の姿勢を強く発信する。



2 事業内容

(1) 設置する標識のイメージ

周囲の自然と調和し、かつ、長期間の掲示に耐えうるように県産材に樹脂注入を行った高耐久材を使用する。(ヒビ割れや色あせ等の劣化を抑制。)

王滝村ではバス停標識として活用



(2) 設置場所

多くの登山客が訪れるとともに県の施策をPRする上でモデル的な場所として、県と県山岳遭難防止対策協会が全国で初めて発表した「信州 山のグレーディング」の県内98ルートに設置する。

国との調整が必要な箇所もあることから、複数年かけ段階的に実施する。

27年度	28年度	29年度
スタート地点(登山口等)への案内標識設置 <<標識の内容(案)>> ・ルートの特徴 (標準的なコースタイム、難易度の解説等) ・山のいわれや見どころ ・「信州 山の日」の説明文	山頂あるいは最高到達点への標識設置 <<標識の内容(案)>> ・山岳名あるいはルート名 ・標高・ルート長・体力度レベル・難易度レベル ・「信州 山の日」ロゴ	

3 所要経費

総事業費 31,088千円

27年度(初年度)

登山口等の案内標識 24,500千円

28年度～29年度

山頂等の案内標識 6,588千円

4 成果目標

○ 信州の山に関する取組み(「信州 山の日」「山のグレーディング」等)の認知度向上

○ 県産材製品出荷量(その他用)の増加

現状(H25)13,000m³ → 目標値(H32)20,000m³



1 提案の趣旨

登山やハイキング、ウォーキングなどの旅行形態が注目される中で、県内でも山岳高原でのロングトレイルや名所旧跡を巡る街道歩きなどが観光コースとして認知されてきた。

木曾管内における著名な観光地である妻籠宿でも、従来の大型バスによる観光客が減少する半面、馬籠峠を越えてくるハイカー、とりわけ個人の外国人観光客の増加が顕著になってきているが、歩道のない国道沿いやわき道などに迷い込むケースが少なくない。

このため、山や高原、峠道を「人力で移動する」来訪者（外国人含む。）が道中迷わずに旅を楽しむことができるよう、パソコン、携帯端末等により安全な移動経路や路上の目印、散策ポイントなどを「歩行者の視点で」情報提供できる環境整備を進め、安全で快適な信州の旅をナビゲートする。

2 現状と問題点

(1) 山間部における地図情報

街中と違い山間部では目標物や周辺状況の記載が極端に少なく、迷いやすい。

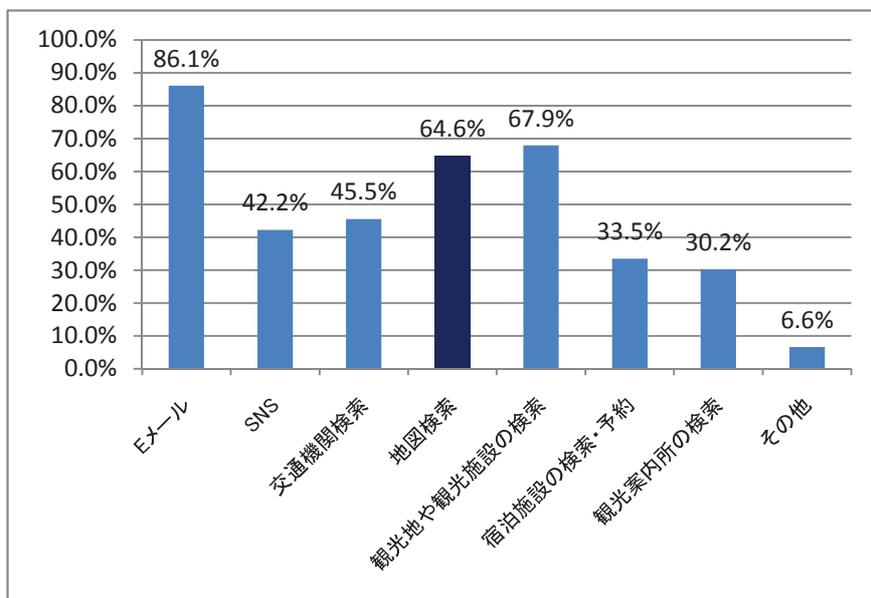
また、歩行者専用の登山道や遊歩道は専用の地図でないと記載されていないことが多く、ネット上のルート検索を使うと車通りの多い国道や県道に誘導されてしまう。



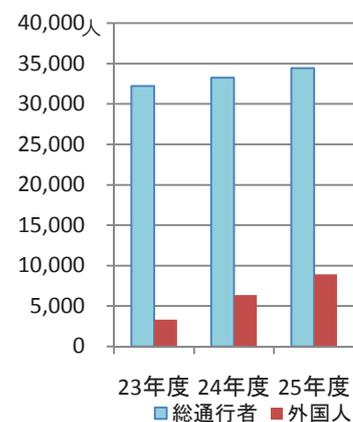
(2) 外国人観光客のニーズ

訪日旅行中の外国人旅行者インターネット利用に関するアンケート結果によると、利用目的の3位が地図検索となっており、地図情報に対するニーズの高さがうかがえる。

訪日旅行中のインターネット利用目的(H25.3 日本政府観光局(JNTO)発表資料)



【参考】馬籠峠におけるハイカーの変動



※(公財)妻籠を愛する会調べ

※訪日旅行中に「インターネットを使用」または「使用したかったができなかった」と答えた424人を母数とした構成比

(3) 地図の提供方法

観光タイプ	情報の形態	問題点
登山	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国土地理院等の地形図 ○ 観光案内所等で配布する簡易マップ ○ 民間団体運営の山岳情報サイト 『コンパス』(日本山岳ガイド協会)『ヤマケイ』(山と溪谷社)等 ※登山計画策定との連動性有 ○ 個人ブログ等による個人登山家の情報発信 (『ヤマレコ』等) ○ GPS付きの専用端末 	<p>細かい情報が入手しにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> → 縮尺2万5000分の1が基本 → 別れ道や標識などの位置が不明確 → 移動中の現在地がつかみにくい <p>携帯電話で活用できるものが少ない</p> <p>専用端末は高価</p>
ハイキング 峠歩き 街道巡り	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光協会等による独自マップ (紙媒体やPDFでの提供が多い) ○ 道の一部はグーグルマップ等で確認可 	<p>縮尺や掲載情報が様々で統一感がない</p> <ul style="list-style-type: none"> → 分岐点や到達点の確認困難 <p>広域的なルート確認がしにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> → 観光地間のルートのつながりがない <p>一般的な地図には載っていない道がある</p>

3 事業内容

「信州のルートマップ」として必要な情報を精査し、観光協会やガイド等から情報を収集して、携帯端末等でも活用できるよう電子地図への入力及びナビゲーション用のアプリを作成する。



4 所要経費

総事業費 35,560千円

- ・ 情報収集・確認作業経費
- ・ 地図と関連アプリの開発費
- ・ 地図データ年間使用料

5 成果目標

- ・ 県内を「歩いて移動する」観光客(外国人含む。)の増加
- ・ 県内観光客の利便性・安全性の向上
- ・ 観光ホームページのアクセス数増加 (県観光協会HPから地図情報にリンクした場合)